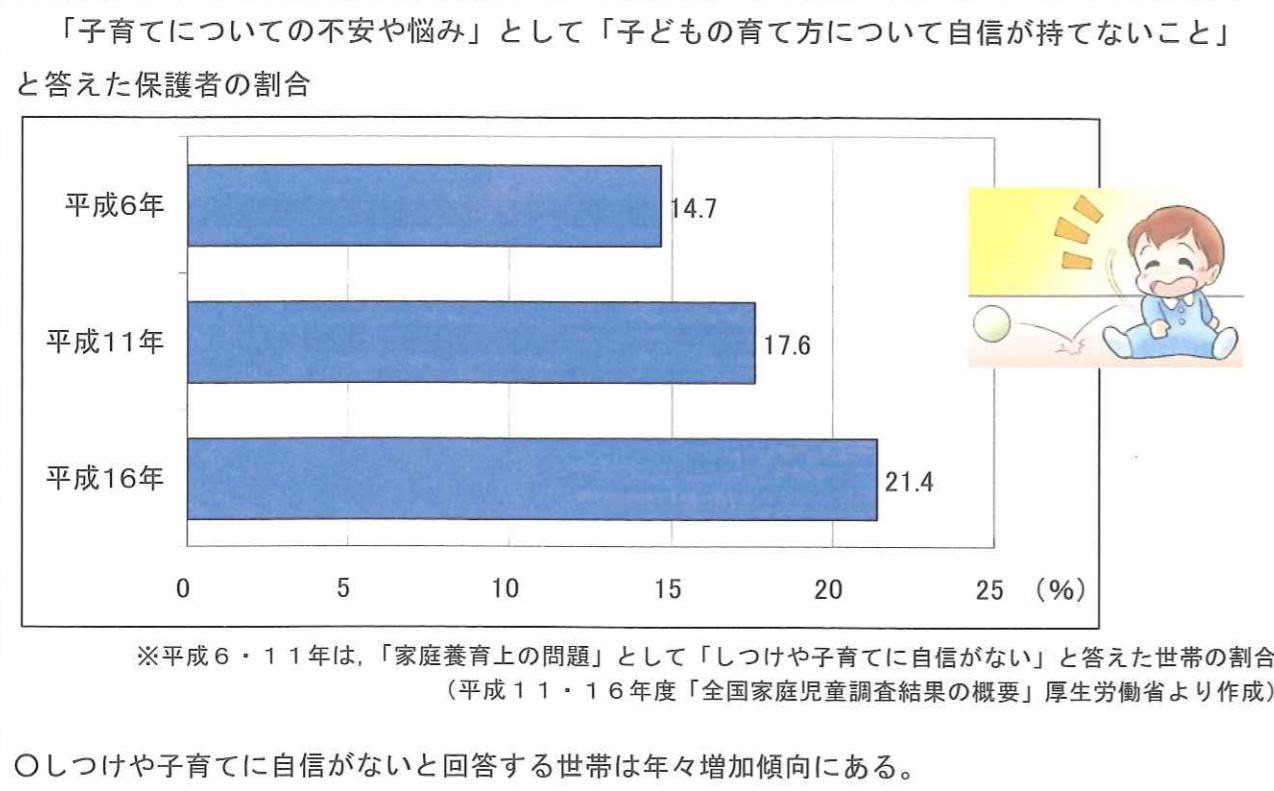


書いて、話して、自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

「再び子育て、そして親育て」期（子育て支援期）
 「『いまどきの親は』なんて言わない」編
 （中高年などの子育て支援者を対象としたプログラム） その1

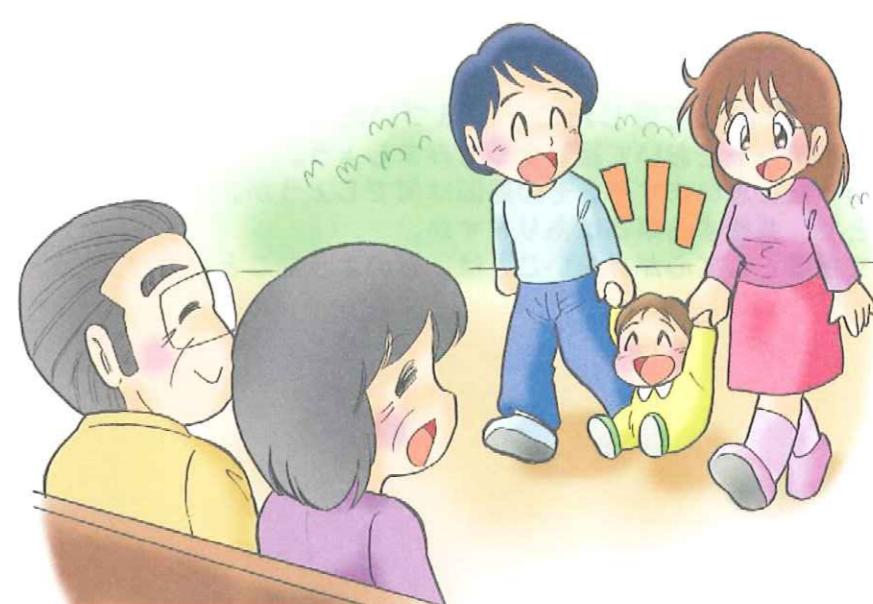


- コラム（平成18年度広島県教育モニター調査より）
- ◆ 子どもがあやしてもおとなしくならないで、どうしていいかわからなくなつた時、車に乗つけて、ケーキを買って、20分ほど離れた公園まで行き、一人やけ食いしたら…涙が止まらなくなりました。
 - ◆ 近所のおばちゃんの「ええがいに育つよー」の一言に思わず気が緩んで涙が出ました。「それでいいのよ」と言ってくれる、背中を押してくれる人を必要としていたんだと思います。
 - ◆ 我が家は核家族の転勤族。他県への引越しを何度か経験しています。初めての子育て、地理も分からず、知人もいない毎日が緊張と不安の連続でした。その時助けてくれたのが、近所のやはり他県から転勤してきた奥さんたちでした。たわいない会話がうれしかったです。
 孤独の中で子育てはできない。助けてもらったあの頃がなつかしいです。



<学習を振り返りましょう>

自分のなかで、わかったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。



イラスト：うじな かずひこ

若い人たちが子育てをしている様子をみかけたとき、「ああ、私の子どもにもこんなころがあったよな」とか「いまどきの子育てって、どうなってるのかしら」などと感じたことはありませんか。

親の気持ち・子の気持ち、そして親子を取り巻く環境を見つめながら、今の子育てについて、いっしょに考えてみませんか。

<思い出しましょう、出し合いましょう>

①あなたが子育てをしていた頃を思い出して、「大変だったと思うこと」は何ですか。

②今子育てをしている人に対して「大変だなと思うこと」は何ですか。

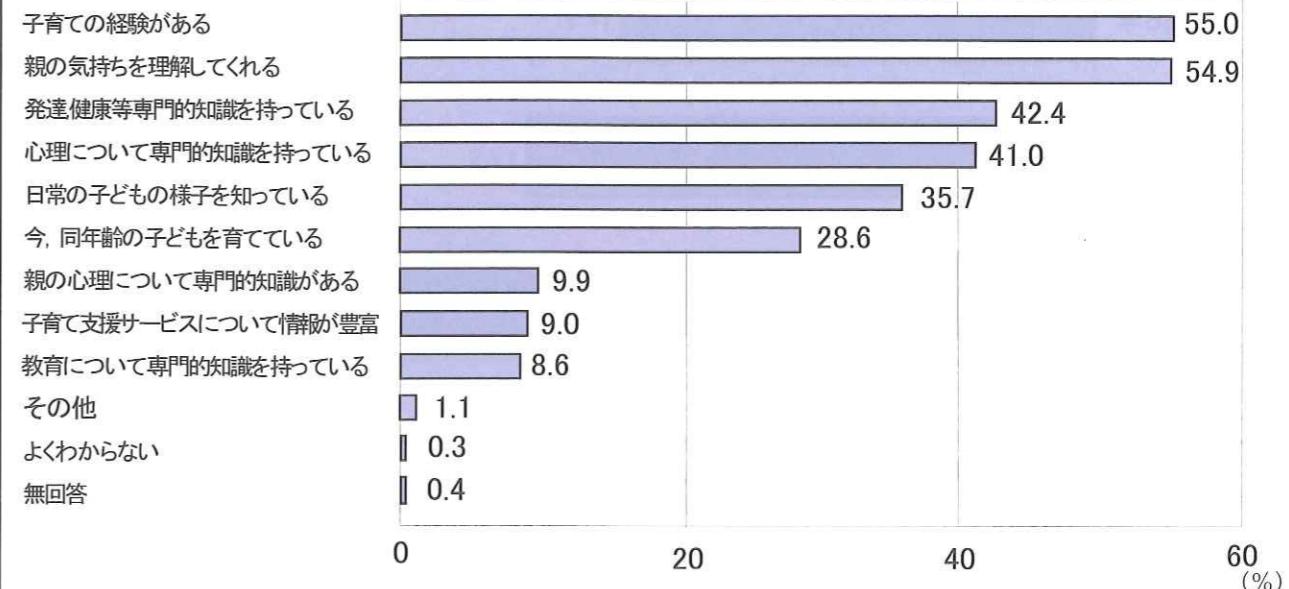
③資料やコラムをとおして感じたこと、気づいたことを話し合ってみましょう。
※次のことについて話し合ってみましょう。

- ・何が変わったと思いますか。その原因は何でしょうか。
- ・昔と今とで、共感する事柄はありますか。
- ・子育て支援者として心がけたいことは、どのようなことですか。



【参考】 現代の子育てに関する資料

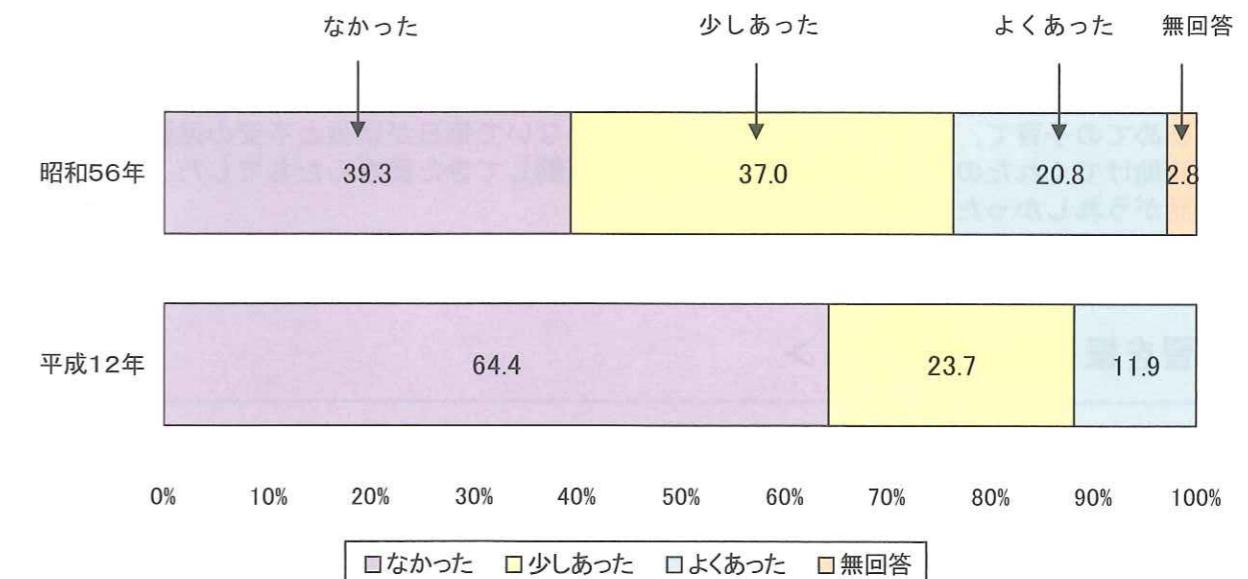
(子育ての) 相談相手としての条件：母親（複数回答）



(平成15年度「子育て支援策等に関する調査研究」厚生労働省より)

○子育ての相談相手の条件として「子育ての経験があること」「親の気持ちを理解してくれること」が、専門的な知識よりも多く望まれている。

乳幼児の世話をしたことがあるかどうか



(平成13年度「児童相談所における児童虐待相談処理件数の増加要因に関する調査研究」神戸流通科学大学教授・加藤曜子より)

○「子どもが生まれる前に乳幼児の世話をしたことがなかった」という人の割合が、20年間で大幅に増加している。

